

〔参考〕協働的な学びの充実のために

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するためには、学習活動のねらいに応じた様々な学習形態を取り入れ、すべての児童が進んで学習に取り組むよう工夫することが考えられます。

ここでは、小グループにおいて互いに協力して学習内容を理解したり、課題を解決したりする協働的な学びの充実のためのポイントについて掲載します。

1 良好な人間関係づくり

- ◆ 分からないことは「分からない」と言い合える雰囲気をつくれます。
- ◆ 児童同士が互いの話を聴き合える関係をつくれます。
- ◆ グループの人数やメンバーの組合せなどを工夫します。

2 適切な教師のかかわり

- ◆ 教科の本質（見方・考え方）を踏まえ、児童と教材、児童の発言や考えをつなげます。（関連付け）
- ◆ 児童のつまづきを、児童の学び合いで解決できるように、グループや児童を促します。（方向付け）
- ◆ 全体指導では、話しすぎないように説明、発問、指示の精選に努め、協働的に学ぶ時間を確保します。

3 協働的な学びの目的やよさ等の実感

- ◆ 協働的な学びの目的や進め方を理解させ、すべての児童が常に主体的に取り組めるようにします。
- ◆ グループで学んで「理解できた」「課題を解決できた」など、協働のよさを実感させます。
- ◆ 授業の中で、仲間と関わり自己の存在感を実感させ、よりよい人間関係を築く機会をつくれます。

〔コラム〕 全校体制での取組

全校で協働的な学びを推進している学校からは、次のような報告があります。

- すべての教員が継続的に取り組むことにより、児童は学び方を身に付け、自分たちで自立的に学ぶことができるようになった。
- 児童同士が互いに信頼し合うことができる安心感を築いた上で、確かめ合ったり、聴き合ったりするため、ほぼすべての児童が学習内容を理解したり、話し合いに参加したりするようになった。また、人間関係が良好になるなど、児童指導上も有効な取組となった。
- 児童の学びの状況を中心とした授業観察を行うことにより、すべての教員が同僚意識をもって学び合う関係を築くことができた。
- 教員間で指導の基本的な考え方を共有し、児童の集団としての学びの質を高める力量を身に付けることができた。